

作業チームにおける検討経緯

	作業内容
6月17日	関係各省に対して、現在研究開発に取り組んでいる温暖化対策技術について調査を依頼。
6月23日	【添付1:個別技術課題の調査様式】 (第1回WG会合) <u>第1回作業チーム会合</u> 経産省が超長期エネルギー技術検討会の状況について、国立環境研究所が温室効果ガスインベントリの現状について紹介。また、今後の作業方針について議論し、各作業チームメンバーからも温暖化対策技術に関する調査を依頼。(このほか、経団連にも同様の調査を依頼)
7月13日	(第2回WG会合) <u>第2回作業チーム会合</u> 松橋先生から、第2回WG会合でも紹介した、温暖化WG作業チームでの温室効果ガス削減ポテンシャルの検討方策について説明。また、国立環境研究所の藤野氏より、AIMモデルを用いた対策技術評価を紹介。事務局から、各省、作業チームメンバー、経団連にお願いしている調査の進捗状況を紹介。
8月 2日	(第3回WG会合) <u>第3回作業チーム会合</u> 収集した調査票(最終的に、各省:122件、メンバー:88件、経団連:16件、合計:226件)を作業チームメンバーに配布し、それぞれの専門分野毎に、調査で得られた個々の温暖化対策技術課題について、温室効果ガス削減ポテンシャル、経済性、技術の成熟度などの評価を行うことを依頼。(締め切り:8月25日) 【添付2:評価シート様式】
9月 7日	<u>第4回作業チーム会合</u> 作業チームメンバーから提出された評価結果(最終的には141シート)を取りまとめ、評価内容について議論。議論を受け、評価の見直しの必要がないかそれぞれのメンバーが再度確認することとした。(締め切り:9月15日)

9月20日	<p><u>作業チーム幹事会</u></p> <p>これまでの評価結果を踏まえ、個別技術課題を39にグルーピング。(その後、作業チームメンバーにグルーピング案を照会し、確認。)</p>
9月29日	<p>事務局から作業チームメンバーに対して、グルーピングされた技術課題について、それぞれ評価シートに沿った評価を依頼。(締め切り:10月5日)</p>
10月6日	<p><u>作業チーム幹事会</u></p> <p>グルーピングされた技術課題(全39課題)の評価結果を取りまとめ、議論。全体を再度各メンバーにフィードバックして必要な見直しを依頼。(締め切り:10月13日)</p>
10月18日	<p><u>第5回作業チーム会合</u></p> <p>グルーピングされた技術課題の評価結果や松橋先生が取りまとめた評価結果の解析など、10月25日の第4回WGへの報告内容について議論。(その後、全体を見渡し、各メンバーがそれぞれ担当の評価結果を再度見直した。)</p>